

護計画にどのように生かしていくか、さらに患者の QOL を目指した継続的な看護が課題と考えている。

A-15) Technetium-99m Mercaptoacetyltri-
glycine を用いたレノシンチグラフィー
と排尿時代用膀胱シンチグラフィーに
よる代用膀胱造設術後の腎機能と代用
膀胱機能の検討

西山 勉・照沼 正博 (長岡中央総合病院
泌尿器科)

【目的】自排尿型代用膀胱造設患者の腎機能と代用膀胱機能を Technetium-99m Mercaptoacetyltri-glycine (^{99m}Tc-MAG3) を用いたレノシンチグラフィーと排尿時代用膀胱シンチグラフィーを行い、検討した。【対象ならびに方法】対象は膀胱癌で膀胱全摘除後に代用膀胱を造設された患者10例(男8例,女2例)である。方法は ^{99m}Tc-MAG3 を用いたレノシンチグラフィーと排尿時代用膀胱シンチグラフィーにより代用膀胱造設術後の腎機能と代用膀胱機能の検討した。【結果】腎機能では18腎中16腎で正常パターンを示した。術後1カ月半の1例2腎で拡張非閉塞型を示した。排尿時代用膀胱シンチグラフィーのパターンは尿流量測定のパターンと一致していた。残尿量は排尿量と排尿前後の代用膀胱部分の RI 量から計算できた。【結語】本検査は両機能を比較的簡便に評価でき、代用膀胱造設術後患者の経過観察に有用と思われた。

A-16) 進行精巣腫瘍における自家造血幹細胞
移植併用高用量化学療法 の検討

谷川 俊貴・富川 善彦 (新潟大学泌尿器科)
今井 智之・斉藤 和美 (厚生連中央総合
齊藤 俊弘・片桐 明善 病院泌尿器科)
高橋 公太 (新潟大学第一内科)
西山 勉
岸 賢治

我々は、新潟大学医学部泌尿器科において進行精巣腫瘍8例に対し自家造血幹細胞移植併用高用量化学療法を施行した。年齢は3才から42才までで、病期は初発例ではⅢB2:4例,ⅢC:2例で、再発例の再発部位は1例は後腹膜,縦隔,両肺,脳で1例は後腹膜,両肺であった。高用量化学療法は,carboplatin 1,000~1,600 mg/m², etoposide 1,000~1,600 mg/m², cyclophosphamide 1.0~1.2 g/m² を5日間に分けて投与した。造血幹細胞

移植は第8日に行い、第9日より rG-CSF を末梢白血球数が 10,000/μl 以上になるまで投与した。移植に用いた造血幹細胞は、自家骨髄のみ3例,末梢血幹細胞のみ3例,自家骨髄と末梢血幹細胞併用が2例で、移植した CFU-GM 数は 1.3~10⁵~4.7~10⁶/kg であった。

治療効果は、1例で治療関連死となったが、CR 3例, PR 3例, NC 1例であった。骨髄機能の回復は、白血球数が 1,000/μl 以上になるまで7日から12日で、血小板数が 50,000/μl 以上になるまで10日から27日を要した。

II. 一 般 演 題 B 悪性リンパ腫

B-1) 当科における悪性リンパ腫の臨床的検討

田中 彰・土持 眞 (日本歯科大学
又賀 泉 新潟歯学部
第二口腔外科)
柴崎 浩一 (同 内科)
浅見 恵子・内海 治郎 (新潟県立がん
センター新潟
病院小児科)

当科開設以来20年間(1975~1994)に日本歯科大学新潟歯学部附属病院第2口腔外科を受診した悪性リンパ腫患者は16名(一次症例,その他6名)で、全悪性腫瘍患者に占める割合は3.6%であった。一次症例10例全例が NHL で、その初発部位は節性が2例,節外性が8例,節性の全例が頸部リンパ節であった。また節外性は鼻腔・副鼻腔の上顎洞が2例,ワルダイエル輪に属する軟口蓋が2例,唾液腺が耳下腺で1例,口腔は上顎歯肉,硬口蓋,頬粘膜がそれぞれ1例であった。病理組織学的に LSG 分類で検討すると Diffuse large cell type が4例で最も多く、部位的には軟口蓋,耳下腺,上顎歯肉,上顎洞であった。また Diffuse medium-sized cell type が2例で硬口蓋,軟口蓋であった。Follicular Lymphoma は1例のみで large cell type の頬粘膜であった。

B-2) 上顎洞を原発とする悪性リンパ腫の1例

五島 秀樹・鈴木 克也 (新潟大学歯学部)
高田 真仁・野村 務 (第一口腔外科)
河野 正己・新垣 晋 (新潟大学第二内科)
若林 昌哉

今回我々は、化学療法,放射線治療に対して抵抗性の